

1. 全国学力・学習状況調査の概要

1 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・以上の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年

3 調査内容

- ①教科に関する調査(国語A・B、算数・数学A・B)
※24年度・27年度は「理科」を追加。理科は3年に一度の実施
- ②生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査
(児童生徒に対する調査／学校に対する調査)

2. 平成27年度調査【悉皆調査】

- 調査日:平成27年4月21日(火)
- 国語、算数・数学に理科を追加した3教科で悉皆調査を実施

3. 平成28年度調査【悉皆調査】

- 調査日:平成28年4月19日(火)
- 国語、算数・数学の2教科での悉皆調査と抽出による経年変化分析調査を実施

(参考) 全国学力・学習状況調査に関する決定等

- 教育再生実行会議第三次提言「これからの大学教育の在り方について」(平成25年6月28日)
『国は、全国学力・学習状況調査において理科の調査を定期的に実施する』
- 第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)
『全国学力・学習状況調査について、国として市町村や学校等の状況を把握するとともに、全ての市町村や学校等に、全国的な状況との比較による課題把握、指導改善等を行う機会を提供するため、全数調査を継続的に実施する。あわせて経年変化分析や経済的な面も含めた家庭の状況と学力等の状況の把握・分析等が可能な「きめ細かい調査」を組み入れるなど調査の充実を図る。また、調査結果を活用した教育委員会や学校等における教育施策や教育指導の充実・改善に向けた一層の取組を促す。』

平成28年度全国学力・学習状況調査「経年変化分析調査」の概要

1. 調査の目的

国全体の学力の状況について、経年の変化を把握・分析し、今後の教育施策の検証・改善に役立てるため、以下の調査を実施する。

2. 調査の対象

文部科学省が調査対象として抽出した、国・公・私立学校(原則として、本体調査を実施する学校)の以下の学年の児童生徒

【小学校調査】小学校第6学年、特別支援学校小学部6学年

【中学校調査】中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3. 調査事項

国語、算数・数学について、それぞれ「主として『知識』に関する問題」(※1)と「主として『活用』に関する問題」(※2)を出題する。

※1:身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

※2:知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

4. 調査実施日

平成28年5月中旬～6月下旬の期間中、調査の対象となった学校が実施可能な日時

5. 調査手法

幅広い内容に関する学力の状況を把握するとともに、経年で学力の状況を把握するため、調査問題は、各教科で複数分冊を用意し、児童生徒はそのうち1分冊に解答する方法とする。

6. 調査問題の公表

調査問題は原則非公表とする。

平成25年度全国学力・学習状況調査「経年変化分析調査」の実施報告

調査の概要

- 本調査は、国全体の学力の状況について、経年の変化を把握・分析し、今後の教育施策の検証・改善に役立てるために実施。
- **平成25年度は第1回目の調査であり、次回以降に経年比較を行うための初年度のデータを得ることが主な目的。** 次回以降、同一問題の解答状況の変化を把握するとともに、問題数の追加などにより、より幅広いデータを得られるよう充実。

調査対象：無作為抽出された学校の小学校第6学年・中学校第3学年

(小学校220校(抽出率1%)、中学校240校(抽出率2%))

実施時期：平成25年5月～6月の期間中、学校が実施可能な日

調査内容：国語、算数・数学 問題関係の質問紙

* 同一問題で経年比較を行うため、調査問題は原則非公開

* 問題冊子はそれぞれ2冊子作成し、各学校は1教科・1冊子のみ実施

今回の結果概要

■ 問題冊子ごとの平均正答率

	問題冊子Ⅰ	問題冊子Ⅱ	(参考)全問題数
小学校国語	71.7%	65.8%	28問
小学校算数	74.0%	64.3%	32問
中学校国語	71.7%	71.4%	41問
中学校数学	66.5%	62.1%	39問

※ 冊子Ⅰ・Ⅱは異なる問題で構成。(より幅広い内容を把握するため問題を2冊子作成)

■ 過去の調査と同一問題の正答率の変化の状況

※ 過去の全国学力・学習状況調査等の問題も出題し、正答率の変化を把握。

	3ポイント以上高い	3ポイント未満の変化	3ポイント以上低い	計
小学校国語	9問	7問	0問	16問
小学校算数	5問	9問	2問	16問
中学校国語	5問	8問	0問	13問
中学校数学	5問	13問	1問	19問
計	24問	37問	3問	64問

具体的な問題の状況(例)

【3ポイント以上高い】

[小学校算数]

条件を変えた複数の図形で、面積が等しいことの原因を言葉や式や図を用いて説明すること

[中学校国語]

相手に応じて表現を工夫して案内文を書くこと

[中学校数学]

事柄が一般的に成り立つ理由を説明すること

【3ポイント未満の変化】

[中学校国語]

調べたことを発表する際の資料の提示の仕方を工夫し、その方法を具体的に説明すること

【3ポイント以上低い】

[小学校算数]

平行四辺形の面積を求めること